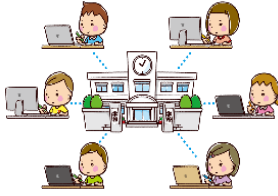


子どもたちへの支援に役立つ情報を伝える

中河内ブロック支援通信

子どもたちの「学びの場の保障」のために



新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、教育現場でも色々な制限が出てきたり、配慮を要する場面が増えたりと、先生方も試行錯誤の日々を送られているのではないかと思います。今回は本校で、訪問教育を受ける子どもたちに対して実施している ICT を活用したオンライン授業について紹介します！子どもたち一人ひとりに応じた「学びの場」を考えるきっかけになればと思います。

訪問教育とは



様々な事情により、通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して、教員が週に数回、主に自宅に訪問し、授業を行っています。中には感染症対策のために訪問教育を希望されるケースもあり、現状では従来通りの教育の機会を保障することが難しくなっているという課題も出てきました。

Zoom アプリを活用し、ご家庭にあるタブレットやパソコンなどと繋いで実施しています。資料共有をしながらやりとりをする場合は Teams というアプリを活用することもあります。

高等部1年の生徒への取り組み

＜授業内容＞

校内探検&地図作り、夏祭り
保護者懇談 等

＜担当教員の感想＞

- 電話での連絡だと声だけのやりとりになってしまうが、オンライン授業だと、画面越しでも目と目がちゃんと合う。そこが一番良いところですね。
- 今まで、本人と訪問担当教員の関わりのみだったが、オンライン授業をすることでクラスメイトや他の教員との関わりが広がりました。
- 授業参加のタイミングは本人の体調に合わせて柔軟に対応することができています。



おすすめ書籍の紹介

日々の疑問解決の糸口になりそうな本をピックアップしてみました♡

初めて支援教育に関わる先生に
オススメ！

『支援が必要な子どもの心と行動がわかる！』

著・須田 正信／加藤 美朗

「この子は何を考えているの？」「どう関わったらいいの？」支援の必要な生徒を目の前にして悩むことが多々あるかと思います。本書では、子どもたちの実際の生活や先生たちの奮闘が分かるリアルな事例と共に、子ども理解や支援のアドバイスが分かりやすく解説されています。読んでみると教室にいる生徒の姿が目に見えやすくなる一冊です。



『肢体不自由教育

連携で困らないための医療用語集』著・松元 泰英
肢体不自由教育では、保護者・医療機関との連携を深めることがより深い子ども理解につながります。本書では、学校現場で必要とされる最低限の医療用語が分野ごとに掲載されているので、知りたい用語の検索が容易にできます。



初めての肢体不自由児との 関わりをサポートに！

『目からウロコ！驚愕と共感の

自閉症スペクトラム入門』著：赤木和重

目からウロコが落ちるとは、「あることをきっかけに今まで分からなかったことが急にわかるようになる」ことです。自閉症スペクトラムについて理解しているけど、子どもと向き合う中で疑問や葛藤を抱えることがありますよね。そんな悩みへの共感や事例がたくさん紹介されており、こんなとらえ方があるんだ！と目からウロコです。
子どもの見方、とらえ方に役立つ一冊です！

入門書+αに

